

はじめに

産学連携サービス経営人材育成事業とは

大学等が、サービス事業者等の産業界と連携し、サービス産業の次代の経営者やマネジメント人材を目指す学生や社会人を対象とした実践的かつ専門性を有する教育プログラムの開発、及び実証を行う取り組みを支援する経済産業省の事業です。この事業で開発された教育プログラムを、サービス経営人材を目指す学生や社会人が学び、実践的かつ専門的な知識・能力を修得することで、サービス産業における新たなイノベーションを創出しうるサービス経営人材の育成を目指しています。

琉球大学では、経済産業省公募の「産学連携サービス経営人材育成事業」に応募し、平成 27 年度から 3 年連続して「**沖縄 21 世紀ビジョンを担うグローバルサービス経営人材の育成**」プロジェクトが採択されました。

29 年度 琉球大学の取り組み

「沖縄 21 世紀ビジョンを担うグローバルサービス経営人材の育成」

沖縄では、世界水準の観光リゾートやアジアと日本を結ぶ物流産業の拠点を目指す取組を進めており、国際的な人材育成が急務となっています。その現状を踏まえ、琉球大学では、本事業によりサービス産業強化策として産学官連携による実践的な教育を実施し、観光及び物流産業等のサービス経営人材を育成するため、宿泊・飲食・物流・交通・通訳・旅行・スポーツ・グローバル経営・ビッグデータ活用・サービスマネジメント、インターンシップ特別コースの 11 プログラムの開発・実証を行います。インターンシップに特別コースでは、従来の職場体験型ではなく、「価値創造型」のインターンシップとして、企業と連携し、3 つの企画に取り組みます。

また、教育プログラムの開発にあたっては、沖縄県内の産業界や行政機関、産業支援機関を構成メンバーとしたコンソーシアム機関を組織し、産業界のニーズと大学のシーズを融合させながら、プログラムに反映させていきます。

本事業による波及効果

- 安定的な観光や物流等のサービス関連産業における地域に密着した雇用の創出及び定着
- グローバルとローカルを意識したサービス経営人材のグローバルマインドの形成
- 沖縄県から世界で活躍できる観光関連産業、国際物流ハブ関連産業等のグローバルサービス経営人材を輩出
- 「サービス産業学（仮）」の日本及びアジアの先進事例となる教育研究拠点を形成